

令和5年5月12日（金曜日）

足立参院議員

能登地震の被災現場視察

石川県能登地方で5日に発生した地震の被災現場を視察した自民党の足立敏之参院議員が建設専門紙の取材に応じた。震度6強を観測した珠洲市で多く発生した家屋の被災状況などを確認。災害が多発し高齢化が進展する地域では「建築物の補強や耐震化が課題」と話し、今後も住民が安心して住み続けられるよう「民間施設であっても（国）市営球場の駐車場を活用した

民間施設にも公的支援必要

から直接的な形で）公的資金で援助することが必要ではないか」との考えを示した。

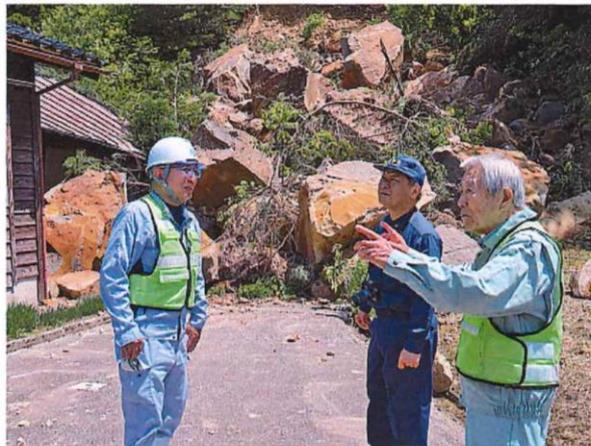
発災から4日後の9日に珠洲市を訪問し、泉谷満寿裕市長の案内で被災した家屋を調査した。石川県建設業協会の平櫻保会長、中市勝也副会長、珠洲建設業協会の明星加守暢会長、石川県珠洲土木事務所の奥村琢実所長らが同行した。

足立議員によると建物被害は局所的で、道路などの交通インフラの被害も限定的だった。海外沿いの国道の一部区間が落石の影響で通行止めとなる一方、半島の先まで地方道を含めた道路ネットワークが高い整備水準にあり「インフラ整備が功を奏し、通行機能を維持できた」と見る。

災害廃棄物処分場も視察。事前受け入れ計画を策定するともに、近隣地域で昨年発生した水害時の対応を参考に整然と分別収集が行われており「重要な対応」と評価した。

地元の建設会社らがさまざまに形で災害時対応に当たる姿に触れて、足立議員は「地域を守る気構えを持っている人たちがいることが大事だ」と強調。被

被災現場を視察する（左から）明星珠洲建協会長、足立議員、平櫻石川建協会長（足立敏之事務所提供）



災現場で民有地の斜面が崩壊し家屋に流れ込む状況などを目の当たりにして、民間所有の土地や建物に対しても公的資金で防災対策を支援できる仕組みが必要と訴えた。こうした要望を谷公一防災・国土強靱化担当相にも伝えたという。